

南山大学大学院
入学試験
出題の意図および解答例

人間文化研究科
人類学専攻

2026年度・春季

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

《博士前期課程》

基礎知識に関する筆記試験	(文化人類学) ……………	1
	(考古学) ……………	2
外国語に関する筆記試験		
英語	(文化人類学) ……………	3
英語	(考古学) ……………	4
西語	(文化人類学) ……………	5
西語	(考古学) ……………	6
中国語	(文化人類学) ……………	7
中国語	(考古学) ……………	8
日本語	(文化人類学) ……………	9
日本語	(考古学) ……………	10
小論文	(文化人類学) [社会人入学審査] ……………	11
	(考古学) [社会人入学審査] ……………	12

《博士後期課程》

専門領域に関する筆記試験	(文化人類学) ……………	13
	(考古学) ……………	14
外国語（英語）に関する筆記試験	(文化人類学) ……………	15
	(考古学) ……………	16

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年4月入学)

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年9月入学)

<博士前期課程>一般入学試験

(2026年2月21日実施)

試験科目：基礎知識 (文化人類学)

配点：100点

<出題の意図>

本専攻で学ぶ前提となる基礎知識を確認する。

<解答例・評価のポイント>

受験生の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない。以下の点を評価ポイントとして採点を行った。

- ・文化人類学の理論や先行研究を用いて、与えられた主題について自身の考えを論じることができるか。
- ・適切な具体例を挙げつつ、文化人類学の一般的な課題について論述できるか。
- ・文化人類学の基本概念、代表的な著作や研究者について正しく説明できるか。

＜出題の意図＞

■ 設問の出題意図

受験者が考古学の基礎的概念と方法論を体系的に理解しているかを確認することを目的としている。

この設問を通じて、各用語の原理を理解しているか、考古学における運用の実際や意義を説明できるか、簡潔に要点をまとめる文章構成力をもっているか、を総合的に評価する意図がある。

＜解答例・評価のポイント＞

■ 解答例

問題の性格上、解答は一義的に決められるものではないため、解答例を示さない。

■ 評価のポイント

- ・ 定義が正確であること
- ・ 考古学的文脈に沿って説明されていること
- ・ 文の構成と明解さ

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年4月入学)

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年9月入学)

<博士前期課程>一般入学試験

(2026年2月21日実施)

試験科目：外国語 (英語 (文化人類学))

配点：100点

<出題の意図>

本専攻で学ぶ前提となる英語の読解力、運用能力を確認する。

<解答例・評価のポイント>

複数の設問を設定し、以下の点を評価ポイントとして採点をおこなった。なお、受験者の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・文化人類学の論文や著書で展開される議論や概念が読解できるか。
- ・文化人類学の基本的な理論や先行研究を背景に問題文を理解しているか。
- ・問題文の概要を適切に把握しこれを要約できるか。

<出題の意図>

この問題は、以下の2点を確認するために出題している

- ① 英語の専門的な考古学文献を正確に理解する力
- ② その内容を自然で正確な日本語に表現する力

特に、無人航空機などの最新の考古学的研究手法について書かれた文章を通じて、文章の構成を正しく読み取る力、専門用語を適切に訳す力、内容の流れを論理的に整理して伝える力を評価している。

要するに、「英語を読む力」だけでなく、考古学の研究を理解し、日本語で説明できる力をみる問題である。

<解答例・評価のポイント>

■ 解答例

問題の性格上、解答は一義的に決められるものではないため、解答例を示さない。

■ 評価のポイント

- ・ 文意が通る訳語が選択できているか
- ・ 各文の文法構造が適切に理解されているか
- ・ 文と文のつながりが適切に理解され、読みやすい日本語になっているか

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年4月入学)

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年9月入学)

<博士前期課程>一般入学試験

(2026年2月21日実施)

試験科目：西語 (文化人類学)

配点：100点

<出題の意図>

本専攻で学ぶ上で前提となる基礎知識の有無を確認し、専門用語を適切に和訳できるかを確認する。

<解答例・評価のポイント>

以下の点を評価のポイントとして採点を行う。なお、翻訳は一義的には決まらないため解答例は示さない。

- ・文章を理解するために必要となる文化人類学の基礎知識を有しているか。
- ・スペイン語の文章を適切な日本語に翻訳できているか。

<出題の意図>

本専攻で学ぶ上で前提となる基礎知識の有無を確認し、専門用語を適切に和訳できるかを確認する。

<解答例・評価のポイント>

以下の点を評価のポイントとして採点を行う。なお、翻訳は一義的には決まらないため解答例は示さない。

- ・文章を理解するために必要となる考古学の基礎知識を有しているか。
- ・スペイン語の文章を適切な日本語に翻訳できているか。

<出題の意図>

- ・本専攻で学ぶ前提となる中国語の読解力、運用能力を専門領域に関する文献の翻訳によって確認する。

<解答例・評価のポイント>

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、翻訳問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・筆者が文章中で記述している事象や考えを文化人類学的文脈で理解した上で翻訳できているか。
- ・文章中に記述されている中国語の専門用語を適切な日本語の単語として翻訳できているか。
- ・文化人類学に関する日本語の文章として、翻訳文全体が適切に記載されているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

<出題の意図>

- ・本専攻で学ぶ前提となる中国語の読解力、運用能力を専門領域に関する文献の翻訳によって確認する。

<解答例・評価のポイント>

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、翻訳問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・筆者が文章中で記述している事象や考えを考古学的文脈で理解した上で翻訳できているか。
- ・文章中に記述されている中国語の専門用語を適切な日本語の単語として翻訳できているか。
- ・考古学に関する日本語の文章として、翻訳文全体が適切に記載されているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

＜出題の意図＞

本専攻で学ぶ前提となる日本語の読解力・運用力、ならびに、人類学の基礎知識を確認するために、日本語で書かれた人類学の理論・実践に関する文章を読解させ、その内容理解を語学・専門知識の両面から推し量ることを意図している。

以上

＜解答例・評価のポイント＞

受験生によるまとめ方ならびに考え方の論述であるため、具体的な解答例の呈示はしない。

評価のポイントは以下の通り。

- ・問題文の意味内容を適切に理解できているかどうか。
- ・日本語の表現（文法・語彙等）が適切であるかどうか。
- ・人類学の基礎的な概念・実践についての知識を有しているかどうか、また、その理解が適切であるかどうか。

以上

＜出題の意図＞

- ・本専攻で学ぶ前提となる日本語の読解力、運用能力を専門領域に関する文献の翻訳によって確認する。

＜解答例・評価のポイント＞

設問1

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、論述問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・考古学的文脈で問題文全体を理解した上で要約できているか。
- ・考古学に関する日本語の文章として解答文全体が適切に記載されているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

設問2

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、論述問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・筆者が文章中で記述している事象や考えを考古学的文脈で理解できているか。
- ・問題で指示された箇所の内容を日本語の考古学専門用語を使って適切に記述できているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

＜出題の意図＞

本専攻で学ぶ前提となる基礎知識を確認する。

＜解答例・評価のポイント＞

以下の点を評価ポイントとして採点を行った。

- ・英文和訳の場合は、専門用語や単語の意味を正しく理解し、日本語として意味が通る訳文になっているか (著作権の関係で解答例は省略する)。
- ・論述問題の場合は、文化人類学の理論や先行研究を用いて、与えられた主題について自身の考えを論じることができるか、適切な具体例を挙げつつ、文化人類学の一般的な課題について論述できるか (受験生の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない)。
- ・用語説明の場合は、文化人類学の用語を正しく説明できるか (受験生の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない)。

<出題の意図>

- ・本専攻で学ぶ前提となる考古学の専門知識を小論文によって確認する。
- ・本専攻で学ぶ前提となる英語の読解力、運用能力を専門領域に関する文献の翻訳によって確認する。

<解答例・評価のポイント>

設問1

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、論述問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・考古学研究の方法論を理解できているか (本設問では、考古学研究における文献史料の利用法について)
- ・考古学の専門用語を適切に使用して解答文全体が記載されているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

設問2

この設問は以下の点を評価のポイントとして採点をおこなった。なお、論述問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・筆者が文章中で記述している事象や考えを考古学的文脈で理解した上で要約できているか。
- ・文章中に記述されている考古学の専門用語を適切な日本語の単語として翻訳できているか。
- ・文章中に誤字や脱字はないか。

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年4月入学)

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年9月入学)

＜博士後期課程＞一般入学試験

(2026年2月21日実施)

試験科目：専門領域 (文化人類学)

配点：100点

＜出題の意図＞

博士後期課程で文化人類学の学位取得を目指すに当たって、自らの研究テーマやその学術的意義を明確に説明できるかを問う。

＜解答例・評価のポイント＞

受験生の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない。以下の点を評価ポイントとして採点を行った。

- ・文化人類学の理論や先行研究を用いて論述できているか。
- ・適切な民族誌的具体例を用いて論述できているか。
- ・文化人類学が抱える課題を発見しているか。
- ・実行可能な研究計画になっているか。

<出題の意図>

本専攻で学ぶ上で前提となる基礎知識の有無を確認し、先行研究を適切に整理しているかを確認する。

<解答例・評価のポイント>

以下の点を評価のポイントとして採点を行う。なお、受験者のこれまでの研究と、今後の研究計画を論述させる問題であるため解答例は示さない。

- ・先行研究と照らし合わせて、自分の研究を位置づけているか。
- ・研究の枠組みを適切に設定できているかどうか。

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年4月入学)

2026年度南山大学大学院 人間文化研究科 人類学専攻 (2026年9月入学)

<博士後期課程>一般入学試験

(2026年2月21日実施)

試験科目：外国語 (英語 (文化人類学))

配点：100点

<出題の意図>

本専攻で学ぶ前提となる英語の読解力、運用能力を確認する。

<解答例・評価のポイント>

複数の設問を設定し、以下の点を評価ポイントとして採点をおこなった。なお、受験者の考えを論述させる問題であるため、解答例の提示はしない。

- ・文化人類学の論文や著書で展開される議論や概念が読解できるか。
- ・文化人類学の基本的な理論や先行研究を背景に問題文を理解しているか。
- ・問題文の概要を適切に把握しこれを要約できるか。

<出題の意図>

本専攻で学ぶ上で前提となる基礎知識の有無を確認し、専門用語を適切に和訳できるかを確認する。

<解答例・評価のポイント>

以下の点を評価のポイントとして採点を行う。なお、翻訳は一義的には決まらないため解答例は示さない。

- ・文章を理解するために必要となる考古学の基礎知識を有しているか。
- ・英文を適切な日本語に翻訳できているか。

発行：南山大学 入学センター

名古屋市昭和区山里町 18 番地

Phone : (052)832-3119

E-mail : nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp

U R L : <https://www.nanzan-u.ac.jp/>